

株主・投資家の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は小田急グループに対するご愛顧を賜り、厚く御礼を申し上げます。

第93期の業績および当社グループにおける取組みにつきましてご報告申し上げます。

取締役社長 山木 利満



第93期(2013年4月1日～2014年3月31日)の業績について

当期の当社連結業績につきましては、各事業にわたり積極的な営業活動を行ったことに加え、景況感の改善による影響もあり、鉄道事業をはじめとした運輸業のほか、百貨店業やホテル業などにおいても業績が好調に推移いたしました。また、鉄道事業などでは、4月の消費増税を控えた駆け込み需要などの影響もあったことなどから増収増益となりました。これに伴い、

当期純利益につきましては250億4千8百万円となり、前期に続き、過去最高益を更新いたしております。

なお、株主配当につきましては、連結配当性向に基づく配当政策により1株につき8.0円(中間4円、期末4円)と、前期と比べ0.5円の増配といたしましたので、あわせてご報告申し上げます。

2014年度につきましては、運輸業や流通業などを中心に4月の消費増税に伴う消費マイナードの冷え込みによる影響などを織り込んでいることなどから減収減益を見込んでおりますが、当期純利益は243億円となる見通しです。

引き続きグループ事業ビジョン「Value Up 小田急」のもと、日本一暮らしやすい沿線の実現を目指して、沿線価値、企業価値の向上に努めてまいります。

下北沢地区の上部利用について

下北沢地区(代々木上原駅～梅ヶ丘駅間)では、当社と東京都が一体となって連続立体交差事業および複々線化事業を進めており、昨年3月に在来線を地下化したことで、この鉄道施設の跡地(※)に約27,500㎡の空間が創出されました。

昨年11月には、この鉄道施設の跡地利用について行政との協議が整ったことから、世田谷区内の施設配置(ゾーニング構想)等を公表いたしました。

このゾーニング構想は、街の個性・雰囲気や踏まえ、「街のにぎわいや回遊性、子育て世代が住める街、文化」をキーワードに、街にあら

たな魅力を創出することを目指しており、東北沢・下北沢・世田谷代田の3駅周辺を中心としたゾーンごとに特色を持たせるとともに、世田谷区が掲げる防災・減災の視点も重視した内容となっております。(詳細につきましては、3ページの特集をご覧ください。)

今後につきましては、連続立体交差事業および複々線化事業の進捗にあわせて計画を進めることとなります。引き続き行政との連携を図り、魅力ある街づくりを目指してまいりますので、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

※連続立体交差事業および複々線化事業に伴う世田谷区・渋谷区内の土地